

受 検 番 号	氏 名

令和 4 年度

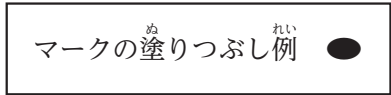
# 1 級建築施工管理技術検定

第一次検定問題 (午前部)

令和 4 年 6 月 12 日(日)

## [ 注 意 事 項 ]

- ページ数は、表紙を入れて 19 ページです。
- 試験時間は、10 時 15 分から 12 時 45 分です。
- 問題の解答の仕方は、次によってください。
  - [No. 1]～[No. 15]までの 15 問題のうちから、12 問題を選択し、解答してください。
  - [No. 16]～[No. 20]までの 5 問題は、全問題を解答してください。
  - [No. 21]～[No. 30]までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
  - [No. 31]～[No. 39]までの 9 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
  - [No. 40]～[No. 44]までの 5 問題は、全問題を解答してください。
- 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
- 問題は、四肢一択式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
  - 解答は、選んだ番号を右のマークの塗りつぶし例に従って、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで塗りつぶしてください。
  - マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
- 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
- この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
- 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
- この問題用紙は、午前の部の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。途中退席する場合は、持ち帰りできません。





※ 問題番号 [No. 1] ~ [No. 15] までの 15 問題のうちから、12 問題を選択し、解答してください。

[No. 1] 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 必要換気量は、1 時間あたりに必要な室内の空気を入れ替える量で表される。
2. 温度差による自然換気は、冬期には中性帯より下部から外気が流入し、上部から流出する。
3. 全熱交換器は、冷暖房を行う部屋で換気設備に用いると、換気による熱損失や熱取得を軽減できる。
4. 室内の効率的な換気は、給気口から排気口に至る換気経路を短くするほうがよい。

[No. 2] 伝熱に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 熱放射は、電磁波による熱の移動現象で、真空中においても生じる。
2. 壁体の含湿率が增加すると、その壁体の熱伝導率は小さくなる。
3. 壁体の熱伝達抵抗と熱伝導抵抗の和の逆数を、熱貫流率という。
4. 物質の単位体積当たりの熱容量を、容積比熱という。

[No. 3] 音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 音波は、媒質粒子の振動方向と波の伝搬方向が等しい縦波である。
2. 音速は、気温が高くなるほど速くなる。
3. 音波が障害物の背後に回り込む現象を回折といい、低い周波数よりも高い周波数の音のほうが回折しやすい。
4. ある音が別の音によって聞き取りにくくなるマスキング効果は、両者の周波数が近いほどその影響が大きい。

[No. 4] 鉄筋コンクリート造の建築物の構造計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ねじれ剛性は、耐震壁等の耐震要素を、平面上の中心部に配置するよりも外側に均一に配置したほうが高まる。
2. 壁に換気口等の小開口がある場合でも、その壁を耐震壁として扱うことができる。
3. 平面形状が極めて長い建築物には、コンクリートの乾燥収縮や不同沈下等による問題が生じやすいため、エキスパンションジョイントを設ける。
4. 柱は、地震時の脆性破壊の危険を避けるため、軸方向圧縮応力度が大きくなるようにする。

[No. 5] 木質構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 同一の接合部にボルトと釘を併用する場合は、両者を加算することができる。
2. 2階建ての建築物における隅柱は、接合部を通し柱と同等以上の耐力を有するように補強した場合、通し柱としなくてもよい。
3. 燃えしろ設計は、木質材料の断面から所定の燃えしろ寸法を除いた断面に、長期荷重により生じる応力度が、短期の許容応力度を超えないことを検証するものである。
4. 直交集成板 (CLT) の弾性係数、基準強度は、強軸方向であっても、一般的な製材、集成材等の繊維方向の値と比べて小さくなっている。

[No. 6] 鉄骨構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 梁の材質を SN 400 A から SN 490 B に変えても、部材断面と荷重条件が同一ならば、構造計算上、梁のたわみは同一である。
2. 節点の水平移動が拘束されているラーメン構造では、柱の座屈長さは、設計上、節点間の距離に等しくとることができる。
3. トラス構造の節点は、構造計算上、すべてピン接合として扱う。
4. 柱脚に高い回転拘束力をもたせるためには、根巻き形式ではなく露出形式とする。

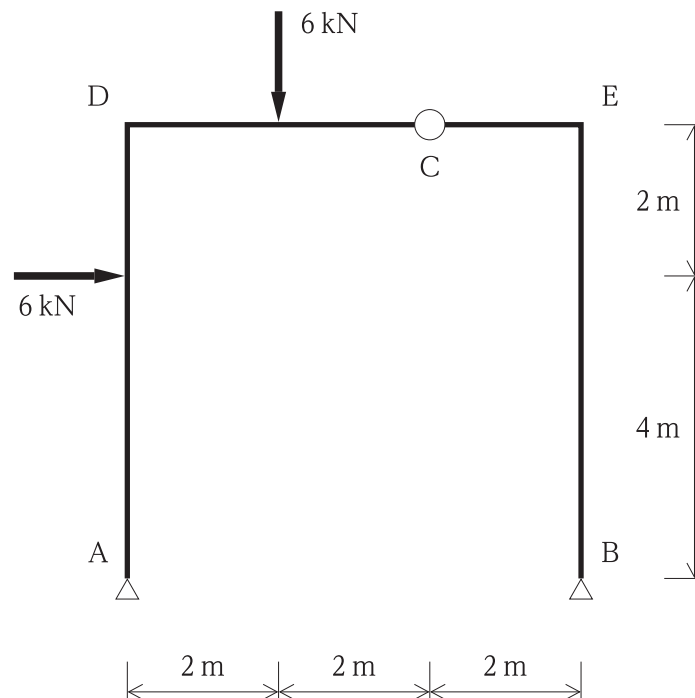
[No. 7] 地盤及び基礎構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 圧密沈下の許容値は、独立基礎のほうがべた基礎に比べて大きい。
2. 粘性土地盤の圧密沈下は、地中の応力の増加により長時間かかって土中の水が絞り出され、間隙が減少するために生じる。
3. 直接基礎の滑動抵抗は、基礎底面の摩擦抵抗が主体となるが、基礎の根入れを深くすることで基礎側面の受動土圧も期待できる。
4. 地盤の液状化は、地下水面下の緩い砂地盤が地震時に繰り返しせん断を受けることにより間隙水圧が上昇し、水中に砂粒子が浮遊状態となる現象である。

[No. 8] 建築物に作用する荷重及び外力に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

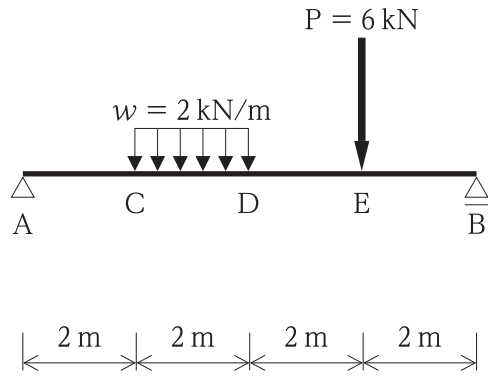
1. 風圧力を求めるために用いる風力係数は、建築物の外圧係数と内圧係数の積により算出する。
2. 雪下ろしを行う慣習のある地方において、垂直積雪量が1mを超える場合、積雪荷重は、雪下ろしの実況に応じ垂直積雪量を1mまで減らして計算することができる。
3. 劇場、映画館等の客席の単位床面積当たりの積載荷重は、実況に応じて計算しない場合、固定席のほうが固定されていない場合より小さくすることができる。
4. 速度圧の計算に用いる基準風速は、原則として、その地方の再現期間50年の10分間平均風速値に相当する。

[No. 9] 図に示す3ヒンジラーメン架構のAD間及びDC間に集中荷重が同時に作用するとき、支点Bに生じる水平反力  $H_B$ 、鉛直反力  $V_B$  の値の大きさの組合せとして、正しいものはどれか。

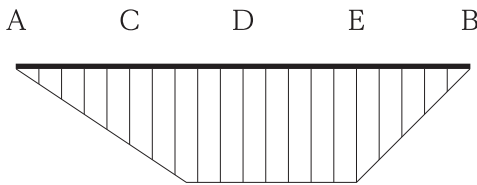


1.  $H_B = 2 \text{ kN}$ ,  $V_B = 6 \text{ kN}$
2.  $H_B = 3 \text{ kN}$ ,  $V_B = 9 \text{ kN}$
3.  $H_B = 4 \text{ kN}$ ,  $V_B = 12 \text{ kN}$
4.  $H_B = 5 \text{ kN}$ ,  $V_B = 15 \text{ kN}$

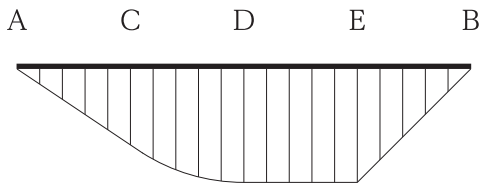
[No. 10] 図に示す単純梁 AB の CD 間に等分布荷重  $w$  が、点 E に集中荷重  $P$  が同時に作用するときの曲げモーメント図として、正しいものはどれか。  
 ただし、曲げモーメントは、材の引張側に描くものとする。



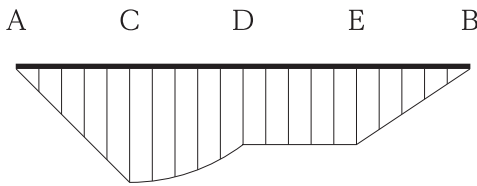
1.



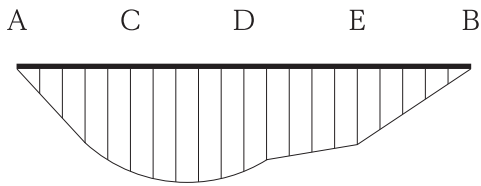
2.



3.



4.



[No. 11] 鋼材に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ある特定の温度以上まで加熱した後、急冷する焼入れ処理により、鋼は硬くなり、強度が増加する。
2. 鋼は、炭素量が多くなると、引張強さは増加し、靱性は低下する。
3. SN 490 B や SN 490 C は、炭素当量等の上限を規定して溶接性を改善した鋼材である。
4. 低降伏点鋼は、モリブデン等の元素を添加することで、強度を低くし延性を高めた鋼材である。

[No. 12] 左官材料に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. しっくい、消石灰を主たる結合材料とした気硬性を有する材料である。
2. せっこうプラスターは、水硬性であり、主に多湿で通気不良の場所の仕上げで使用される。
3. セルフレベリング材は、せっこう組成物やセメント組成物に骨材や流動化剤等を添加した材料である。
4. ドロマイトプラスターは、保水性が良いため、こて塗りがしやすく作業性に優れる。

[No. 13] 建築用板ガラスに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. フロート板ガラスは、熔融した金属の上に浮かべて製板する透明、かつ、平滑なガラスである。
2. 複層ガラスは、複数枚の板ガラスの間に間隙を設け、大気圧に近い圧力の乾燥気体を満たし、その周辺を密閉したもので、断熱効果のあるガラスである。
3. 熱線吸収板ガラスは、板ガラスの表面に金属皮膜を形成したもので、冷房負荷の軽減の効果が高いガラスである。
4. 倍強度ガラスは、フロート板ガラスを軟化点まで加熱後、両表面から空気を吹き付けて冷却加工するなどにより、強度を約2倍に高めたガラスである。

[No. 14] 建築用シーリング材に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. シーリング材のクラスは、目地幅に対する拡大率及び縮小率で区分が設定されている。
2. 1成分形シーリング材の硬化機構には、湿気硬化、乾燥硬化及び非硬化がある。
3. 2面接着とは、シーリング材が相対する2面で被着体と接着している状態をいう。
4. 2成分形シーリング材は、基剤と着色剤の2成分を施工直前に練り混ぜて使用するシーリング材である。

[No. 15] 内装材料に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. コンポジションビニル床タイルは、単層ビニル床タイルよりバインダー含有率を高くした床タイルである。
2. 段通は、製造法による分類では、織りカーペットの手織りに分類される。
3. ロックウール化粧吸音板は、ロックウールのウールを主材料とし、結合材、混和材を用いて成形し、表面化粧をしたものである。
4. 強化せっこうボードは、せっこうボードの芯に無機質繊維等を混入したもので、性能項目として耐衝撃性や耐火炎性等が規定されている。



※ 問題番号 [No. 16] ~ [No. 20] までの 5 問題は、全問題を解答してください。

[No. 16] 構内アスファルト舗装に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 設計 CBR は、路床の支持力を表す指標であり、修正 CBR は、路盤材料の品質を表す指標である。
2. 盛土をして路床とする場合は、一層の仕上り厚さ 300 mm 程度ごとに締め固めながら、所定の高さに仕上げる。
3. アスファルト混合物の締め固め作業は、一般に継目転圧、初転圧、二次転圧、仕上げ転圧の順に行う。
4. 初転圧は、ヘアクラックの生じない限りできるだけ高い温度とし、その転圧温度は、一般に 110 ~ 140 °C の間で行う。

[No. 17] 避雷設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 受雷部は、保護しようとする建築物の種類、重要度等に対応した 4 段階の保護レベルに応じて配置する。
2. 避雷設備は、建築物の高さが 20 m を超える部分を雷撃から保護するように設けなければならない。
3. 危険物を貯蔵する倉庫は、危険物の貯蔵量や建築物の高さにかかわらず、避雷設備を設けなければならない。
4. 鉄骨造の鉄骨躯体は、構造体利用の引下げ導線の構成部材として利用することができる。

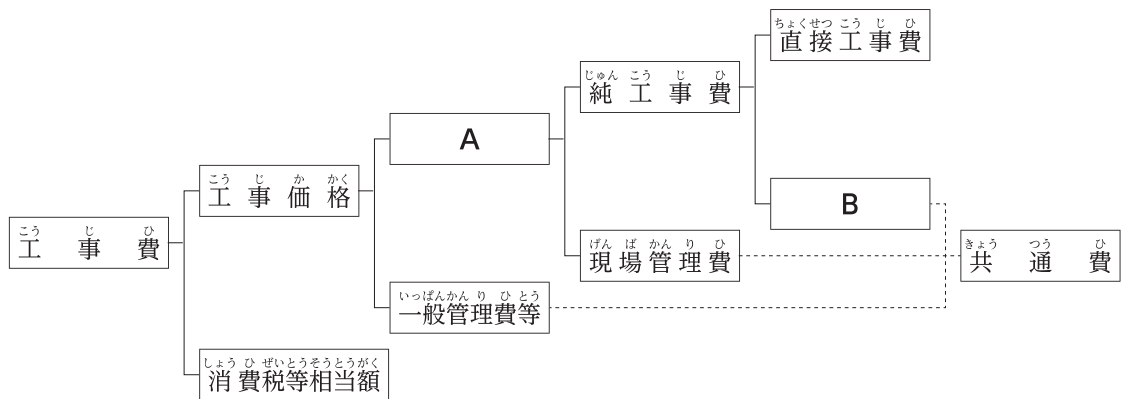
[No. 18] 空気調和設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 空気調和機は、一般にエアフィルタ、空気冷却器、空気加熱器、加湿器、送風機等で構成される装置である。
2. 冷却塔は、温度上昇した冷却水を、空気と直接接触させて気化熱により冷却する装置である。
3. 二重ダクト方式は、2 系統のダクトで送られた温風と冷風を、混合ユニットにより熱負荷に応じて混合量を調整して吹き出す方式である。
4. 単一ダクト方式における CAV 方式は、負荷変動に対して風量を変える方式である。

[No. 19] 消火設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 屋内消火栓設備は、建物の内部に設置し、人がノズルを手に持ち、火点に向けてノズルより注水を行い、冷却作用により消火するものである。
2. 閉鎖型ヘッドを用いる湿式スプリンクラー消火設備は、火災による煙を感知したスプリンクラーヘッドが自動的に開き、散水して消火するものである。
3. 不活性ガス消火設備は、二酸化炭素等の消火剤を放出することにより、酸素濃度の希釈作用や気化するときの熱吸収による冷却作用により消火するものである。
4. 水噴霧消火設備は、噴霧ヘッドから微細な霧状の水を噴霧することにより、冷却作用と窒息作用により消火するものである。

[No. 20] 積算に関する次の工事費の構成において、 に当てはまる語句の組合せとして、「公共建築工事積算基準（国土交通省制定）」上、正しいものはどれか。



1. A. 工事原価      B. 共通仮設費
2. A. 工事原価      B. 直接仮設費
3. A. 現場工事費      B. 共通仮設費
4. A. 現場工事費      B. 直接仮設費

※ 問題番号 [No. 21] ~ [No. 30] までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。

[No. 21] 乗入れ構台の計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 乗入れ構台の支柱と山留めの切梁支柱は、荷重に対する安全性を確認した上で兼用した。
2. 道路から乗入れ構台までの乗込みスロープは、勾配を  $\frac{1}{8}$  とした。
3. 乗入れ構台の支柱の位置は、使用する施工機械や車両の配置によって決めた。
4. 乗入れ構台の幅は、車両の通行を2車線とするため、7mとした。

[No. 22] 土工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 根切り底面下に被圧帯水層があり、盤ぶくれの発生が予測されたため、ディープウェル工法で地下水位を低下させた。
2. 法付けオープンカットの法面保護をモルタル吹付けで行うため、水抜き孔を設けた。
3. 粘性土地盤を法付けオープンカット工法で掘削するため、円弧すべりに対する安定を検討した。
4. ヒービングの発生が予測されたため、ウエルポイントで掘削場内外の地下水位を低下させた。

[No. 23] 山留め工事の管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 傾斜計を用いて山留め壁の変形を計測する場合には、山留め壁下端の変位量に注意する。
2. 山留め壁周辺の地盤の沈下を計測するための基準点は、工事の影響を受けない付近の構造物に設置する。
3. 山留め壁は、変形の管理基準値を定め、その計測値が管理基準値に近づいた場合の具体的な措置をあらかじめ計画する。
4. 盤圧計は、切梁と火打材との交点付近を避け、切梁の中央部に設置する。

[No. 24] 場所打ちコンクリート杭地業に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの打込みにおいて、トレミー管のコンクリート中への挿入長さが長すぎると、コンクリートの流出が悪くなるため、最長でも9m程度とした。
2. アースドリル工法における鉄筋かごのスペーサーは、孔壁を損傷させないように、平鋼を加工したものをを用いた。
3. オールケーシング工法における孔底処理は、孔内水がない場合やわずかな場合にはハンマグラブにより掘りくずを除去した。
4. リバース工法における孔内水位は、地下水位より1m程度高く保った。

[No. 25] 鉄筋のガス圧接に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

ただし、鉄筋は、SD 345 の D 29 とする。

1. 隣り合うガス圧接継手の位置は、300 mm 程度ずらした。
2. 圧接部のふくらみの長さは、鉄筋径の1.1倍以上とした。
3. 柱主筋のガス圧接継手位置は、梁上端から500 mm 以上、1,500 mm 以下、かつ、柱の内法高さの $\frac{3}{4}$ 以下とした。
4. 鉄筋の中心軸の偏心量は、5 mm 以下とした。

[No. 26] コンクリートの調合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 普通コンクリートに再生骨材 H を用いる場合の水セメント比の最大値は、60 % とする。
2. コンクリートの調合強度を定める際使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差は、コンクリート工場に実績がない場合、 $1.5 \text{ N/mm}^2$  とする。
3. 単位水量は、 $185 \text{ kg/m}^3$  以下とし、コンクリートの品質が得られる範囲内で、できるだけ小さくする。
4. 高強度コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として $0.30 \text{ kg/m}^3$  以下とする。

[No. 27] 高力ボルト接合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 締付け後の高力ボルトの余長は、ねじ1山から6山までの範囲であることを確認した。
2. ねじの呼びがM22のトルシア形高力ボルトの長さは、締付け長さに35mmを加えた値を標準とした。
3. 高力ボルトの接合部で肌すきが1mmを超えたため、フィラープレートを入れた。
4. ナット回転法による締付け完了後の検査は、1次締付け後の本締めによるナット回転量が $120^\circ \pm 45^\circ$ の範囲にあるものを合格とした。

[No. 28] 大空間鉄骨架構の建方に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. リフトアップ工法は、地組みした所定の大きさのブロックをクレーン等で吊り上げて架構を構築する工法である。
2. 総足場工法は、必要な高さまで足場を組み立てて、作業用の構台を全域にわたり設置し、架構を構築する工法である。
3. 移動構台工法は、移動構台上で所定の部分の屋根鉄骨を組み立てた後、構台を移動させ、順次架構を構築する工法である。
4. スライド工法は、作業構台上で所定の部分の屋根鉄骨を組み立てた後、そのユニットを所定位置まで順次滑動横引きしていき、最終的に架構全体を構築する工法である。

[No. 29] 木質軸組構法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 1階及び2階の上下同位置に構造用面材の耐力壁を設けるため、胴差部において、構造用面材相互間に、6mmのあきを設けた。
2. 接合に用いるラグスクリューは、先孔にスパナを用いて回しながら締め付けた。
3. 接合金物のボルトの締付けは、座金が木材へ軽くめり込む程度とし、工事中、木材の乾燥収縮により緩んだナットは締め直した。
4. 集成材にあけるボルト孔の間隔は、許容誤差を $\pm 5\text{mm}$ とした。

[No. 30] 揚重運搬機械に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 建設用リフトは、土木、建築等の工事の作業で使用されるエレベーターで、人及び荷を運搬する。
2. タワークレーンのブーム等、高さが地表から60 m以上となる場合、原則として、航空障害灯を設置する。
3. 移動式クレーンは、旋回範囲内に6,600 Vの配電線がある場合、配電線から安全距離を2 m以上確保する。
4. ロングスパン工事用エレベーターは、安全上支障がない場合、搬器の昇降を知らせるための警報装置を備えないことができる。

※ 問題番号 [No. 31] ~ [No. 39] までの 9 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。

[No. 31] 合成高分子系ルーフィングシート防水に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 加硫ゴム系シート防水の接着工法において、平場部の接合部のシートの重ね幅は 100 mm 以上とし、立上り部と平場部との重ね幅は 150 mm 以上とした。
2. 加硫ゴム系シート防水の接着工法において、出隅角の処理は、シートの張付け前に加硫ゴム系シートで増張りを行った。
3. 塩化ビニル樹脂系シート防水の接着工法において、下地が ALC パネルのため、プライマーを塗布した。
4. エチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水の密着工法において、接合部のシートの重ね幅は、幅方向、長手方向とも 100 mm 以上とした。

[No. 32] シーリング工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 外壁 ALC パネル張りに取り付けるアルミニウム製建具の周囲の目地シーリングは、3 面接着とした。
2. 先打ちしたポリウレタン系シーリング材に、ポリサルファイド系シーリング材を打ち継いだ。
3. シーリング材の打継ぎ箇所は、目地の交差部及びコーナー部を避け、そぎ継ぎとした。
4. コンクリートの水平打継ぎ目地のシーリングは、2 成分形変成シリコーン系シーリング材を用いた。

[No. 33] セメントモルタルによる壁タイル後張り工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 密着張りの張付けモルタルは 2 度塗りとし、タイルは、上から下に 1 段置きに数段張り付けた後、それらの間のタイルを張った。
2. モザイクタイル張りの張付けモルタルは 2 度塗りとし、1 層目はこて圧をかけて塗り付けた。
3. 改良積上げ張りの張付けモルタルは、下地モルタル面に塗り厚 4 mm で塗り付けた。
4. 改良圧着張りの下地面への張付けモルタルは 2 度塗りとし、その合計の塗り厚を 5 mm とした。

[No. 34] 心木なし瓦棒葺に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 水上部分と壁との取合い部に設ける雨押えは、壁際立上りを45 mmとした。
2. 通し吊子の鉄骨母屋への取付けは、平座金を付けたドリルねじで、下葺材、野地板を貫通させ母屋に固定した。
3. 棟部の納めは、溝板の水上端部に八千代折とした水返しを設け、棟包みを取り付けた。
4. けらば部の溝板の幅は、瓦棒の働き幅の $\frac{1}{2}$ 以下とした。

[No. 35] 防水形合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材（防水形複層塗材 E）仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 上塗材は、 $0.3 \text{ kg/m}^2$ を2回塗りとした。
2. 主材の基層塗りは、 $1.7 \text{ kg/m}^2$ を2回塗りとした。
3. 出隅、入隅、目地部、開口部まわり等に行う増塗りは、主材塗りの後に行った。
4. 主材の凹凸状の模様塗りは、見本と同様になるように、吹付け工法により行った。

[No. 36] アルミニウム製建具に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 連窓の取付けは、ピアノ線を張って基準とし、取付け精度を2 mm以内とした。
2. 建具枠につくアンカーは、両端から逃げた位置にあるアンカーから、間隔を500 mm以下で取り付けた。
3. 外部建具周囲の充填モルタルは、NaCl換算0.04%（質量比）以下まで除塩した海砂を使用した。
4. 水切り及び膳板は、アルミニウム板を折曲げ加工するため、厚さを1.2 mmとした。

[No. 37] 合成樹脂塗床に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 薬品を使用する実験室の塗床は、平滑な仕上げとするため、流し展べ工法とした。
2. 合成樹脂を配合したパテ材や樹脂モルタルでの下地調整は、プライマーの乾燥後に行った。
3. エポキシ樹脂系コーティング工法のベースコートは、コーティング材を木ごてで塗り付けた。
4. エポキシ樹脂系モルタル塗床の防滑仕上げは、トップコート1層目の塗布と同時に骨材を散布した。



[No. 38] 壁のせっこうボード張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. テーパーエッジボードの突付けジョイント部の目地処理における上塗りは、ジョイントコンパウンドを幅 200 ~ 250 mm 程度に塗り広げて平滑にした。
2. せっこう系接着材による直張り工法において、ボード中央部の接着材を塗り付ける間隔は、床上 1,200 mm 以下の部分より、床上 1,200 mm を超える部分を小さくした。
3. せっこう系接着材による直張り工法において、躯体から仕上がり面までの寸法は、厚さ 9.5 mm のボードで 20 mm 程度、厚さ 12.5 mm のボードで 25 mm 程度とした。
4. ボードの下端部は、床面からの水分の吸上げを防ぐため、床面から 10 mm 程度浮かして張り付けた。

[No. 39] 外壁の押出成形セメント板 (ECP) 張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 縦張り工法のパネルは、層間変形に対してロッキングにより追従するため、縦目地を 15 mm、横目地を 8 mm とした。
2. 二次的な漏水対策として、室内側にはガスケット、パネル張り最下部には水抜きパイプを設置した。
3. 幅 600 mm のパネルへの欠込みは、欠込み幅を 300 mm 以下とした。
4. 横張り工法のパネル取付け金物 (Z クリップ) は、パネルがスライドできるようにし、パネル左右の下地鋼材に堅固に取り付けた。

※ 問題番号 [No. 40] ~ [No. 44] までの 5 問題は、全問題を解答してください。

[No. 40] 仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 仮設の照明設備において、常時就業させる場所の作業面の照度は、普通の作業の場合、100ルクス以上とする計画とした。
2. 傾斜地に設置する仮囲いの下端の隙間を塞ぐため、土台コンクリートを設ける計画とした。
3. 前面道路に設置する仮囲いは、道路面を傷めないようにするため、ベースをH形鋼とする計画とした。
4. 同時に就業する女性労働者が25人見込まれたため、女性用便房を2個設置する計画とした。

[No. 41] 仮設設備の計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 工事用の動力負荷は、工程表に基づいた電力量山積みの50%を実負荷とする計画とした。
2. 工事用の給水設備において、水道本管からの供給水量の増減に対する調整のため、2時間分の使用水量を確保できる貯水槽を設置する計画とした。
3. アースドリル工法による掘削に使用する水量は、1台当たり10m<sup>3</sup>/hとして計画した。
4. 工事用電気設備のケーブルを直接埋設するため、その深さを、車両その他の重量物の圧力を受けるおそれがある場所を除き60cm以上とし、埋設表示する計画とした。

[No. 42] 施工計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート躯体工事において、現場作業の削減と能率向上により工期短縮が図れるプレキャストコンクリート部材を使用する計画とした。
2. 大規模、大深度の工事において、工期短縮のため、地下躯体工事と並行して上部躯体を施工する逆打ち工法とする計画とした。
3. 鉄骨工事において、施工中の粉塵の飛散をなくし、被覆厚さの管理を容易にするため、耐火被覆をロックウール吹付け工法とする計画とした。
4. 既製杭工事のプレボーリング埋込み工法において、支持層への到達の確認方法として、掘削抵抗電流値と掘削時間を積算した積分電流値を用いる計画とした。

[No. 43] 建設業者が作成する建設工事の記録に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 過去の不具合事例等を調べ、あとに問題を残しそうな施工や材料については、集中的に記録を残すこととした。
2. デジタルカメラによる工事写真は、黒板の文字や撮影対象が確認できる範囲で有効画素数を設定して記録することとした。
3. 既製コンクリート杭工事の施工サイクルタイム記録、電流計や根固め液等の記録は、発注者から直接工事を請け負った建設業者が保存する期間を定め、当該期間保存することとした。
4. 設計図書に示された品質が証明されていない材料については、現場内への搬入後に行った試験の記録を保存することとした。

[No. 44] 建築工事における工期と費用に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 直接費が最小となるときに要する工期を、ノーマルタイム（標準時間）という。
2. 工期を短縮すると、間接費は増加する。
3. どんなに直接費を投入しても、ある限度以上には短縮できない工期を、クラッシュタイム（特急時間）という。
4. 総工事費は、工期を最適な工期より短縮しても、延長しても増加する。



受 検 番 号	氏 名

令和 4 年度

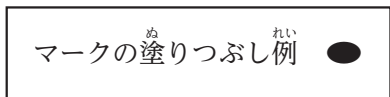
# 1 級建築施工管理技術検定

第一次検定問題 (午後部)

令和 4 年 6 月 12 日(日)

## [ 注 意 事 項 ]

- ページ数は、表紙を入れて 14 ページです。
- 試験時間は、14 時 15 分から 16 時 15 分です。
- 問題の解答の仕方は、次によってください。
  - イ. [No. 45] ~ [No. 54] までの 10 問題は、全問題を解答してください。
  - ロ. [No. 55] ~ [No. 60] までの 6 問題は、全問題を解答してください。
  - ハ. [No. 61] ~ [No. 72] までの 12 問題のうちから、8 問題を選択し、解答してください。
- 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
- 問題番号 [No. 45] ~ [No. 54], [No. 61] ~ [No. 72] は、四肢一択式です。
  - 正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
- 問題番号 [No. 55] ~ [No. 60] は、施工管理法の応用能力問題で五肢二択式です。
  - 正解と思う肢の番号を 2 つ選んでください。
  - なお、選んだ肢の番号が 2 つとも正しい場合のみ正答となります。
- 解答の記入に当たっては、次によってください。
  - イ. 解答は、選んだ番号を右のマークの塗りつぶし例に従って、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで塗りつぶしてください。
- ロ. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
- 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
- この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
- 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
- この問題用紙は、午後部の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。途中退席する場合は、持ち帰りできません。





※ 問題番号 [No. 45] ~ [No. 54] までの 10 問題は、全問題を解答してください。

[No. 45] 工程計画及び工程表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 工程計画には、大別して積上方式と割付方式とがあり、工期が制約されている場合は、割付方式で検討することが多い。
2. 工程計画において、山均しは、作業員、施工機械、資機材等の投入量の均等化を図る場合に用いる。
3. 工程表は、休日や天候を考慮した実質的な作業可能日数を暦日換算した日数を用いて作成する。
4. 基本工程表は、工事の特定の部分や職種を取り出し、それにかかわる作業、順序関係、日程等を示したものである。

[No. 46] タクト手法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 作業を繰り返し行うことによる習熟効果によって生産性が向上するため、工事途中でのタクト期間の短縮や作業者の人数の削減を検討する。
2. 設定したタクト期間では終わることができない一部の作業については、当該作業の作業期間をタクト期間の整数倍に設定しておく。
3. 各作業は独立して行われるため、1つの作業に遅れがあってもタクトを構成する工程全体への影響は小さい。
4. 一連の作業は同一の日程で行われ、次の工区へ移動することになるため、各工程は切れ目なく実施できる。

[No. 47] 品質管理に関する記述として、最も適当なものはどれか。

1. 品質管理は、品質計画の目標のレベルにかかわらず、緻密な管理を行う。
2. 品質の目標値を大幅に上回る品質が確保されていれば、優れた品質管理といえる。
3. 品質確保のための作業標準を作成し、作業標準どおり行われているか管理を行う。
4. 品質管理は、計画段階より施工段階で検討するほうが、より効果的である。

[No. 48] 鉄筋コンクリート工事における試験及び検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. スランプ 18 cm のコンクリートの荷卸し地点におけるスランプの許容差は、 $\pm 2.5$  cm とした。
2. 鉄筋圧接部における超音波探傷試験による抜取検査で不合格となったロットについては、試験されていない残り全数に対して超音波探傷試験を行った。
3. 鉄筋圧接部における鉄筋中心軸の偏心量が規定値を超えたため、再加熱し加圧して偏心を修正した。
4. 空気量 4.5 % のコンクリートの荷卸し地点における空気量の許容差は、 $\pm 1.5$  % とした。

[No. 49] 鉄筋コンクリート造建築物の解体工事における振動対策及び騒音対策に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 壁等を転倒解体する際の振動対策として、先行した解体作業で発生したガスを床部分に敷き、クッション材として利用した。
2. 振動レベルの測定器の指示値が周期的に変動したため、変動ごとの指示値の最大値と最小値の平均を求め、そのなかの最大の値を振動レベルとした。
3. 振動ピックアップの設置場所は、緩衝物がなく、かつ、十分踏み固めた堅い場所に設定した。
4. 周辺環境保全に配慮し、振動や騒音が抑えられるコンクリートカッターを用いる切断工法を採用した。

[No. 50] 労働災害に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 労働災害における労働者とは、事業又は事務所に使用される者で、賃金を支払われる者をいう。
2. 労働災害の重さの程度を示す強度率は、1,000 延労働時間当たりの労働損失日数の割合で表す。
3. 労働災害における重大災害とは、一時に3名以上の労働者が業務上死傷又は罹病した災害をいう。
4. 労働災害には、労働者の災害だけでなく、物的災害も含まれる。



[No. 51] 市街地の建築工事における公衆災害防止対策に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 鉄筋コンクリート造建築物の解体工事において、防音と落下物防護のため、足場の外側面に防音シートを設置した。
2. 建築工事を行う部分の高さが地盤面から20mのため、防護柵を2段設置した。
3. 外部足場に設置した防護柵の敷板は、厚さ1.6mmの鉄板を用い、敷板どうしの隙間は3cm以下とした。
4. 地盤アンカーの施工において、アンカーの先端が敷地境界の外に出るため、当該敷地所有者の許可を得た。

[No. 52] 作業主任者の職務として、「労働安全衛生規則」上、定められていないものはどれか。

1. 型枠支保工の組立て等作業主任者は、作業中、要求性能墜落制止用器具等及び保護帽の使用状況を監視すること。
2. 建築物等の鉄骨の組立て等作業主任者は、作業の方法及び順序を作業計画として定めること。
3. 地山の掘削作業主任者は、作業の方法を決定し、作業を直接指揮すること。
4. 土止め支保工作業主任者は、材料の欠点の有無並びに器具及び工具を点検し、不良品を取り除くこと。

[No. 53] 事業者の講ずべき措置に関する記述として、「労働安全衛生規則」上、誤っているものはどれか。

1. 強風、大雨、大雪等の悪天候のため危険が予想されるとき、労働者を作業に従事させてはならないのは、作業箇所の高さが3m以上の場合である。
2. 安全に昇降できる設備を設けなければならないのは、原則として、高さ又は深さが1.5mをこえる箇所で作業を行う場合である。
3. 自動溶接を除くアーク溶接の作業に使用する溶接棒等のホルダーについて、感電の危険を防止するため必要な絶縁効力及び耐熱性を有するものでなければ、使用させてはならない。
4. 明り掘削の作業において、掘削機械の使用によるガス導管、地中電線路等地下工作物の損壊により労働者に危険を及ぼすおそれがあるときは、掘削機械を使用させてはならない。

[No. 54] 酸素欠乏危険作業に労働者を従事させるときの事業者の責務に関する記述として、  
「酸素欠乏症等防止規則」上、誤っているものはどれか。

1. 酸素欠乏危険作業については、衛生管理者を選任しなければならない。
2. 酸素欠乏危険場所で空気中の酸素の濃度測定を行ったときは、その記録を3年間保存しなければならない。
3. 酸素欠乏危険場所では、原則として、空気中の酸素の濃度を18%以上に保つように換気しなければならない。
4. 酸素欠乏危険場所では、空気中の酸素の濃度測定を行うため必要な測定器具を備え、又は容易に利用できるような措置を講じておかななければならない。

※ 問題番号 [No. 55] ~ [No. 60] までの 6 問題は応用能力問題です。全問題を解答してください。

[No. 55] 工事現場における材料の保管に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 車輪付き裸台で運搬してきた板ガラスは、屋内の床に、ゴム板を敷いて平置きで保管した。
2. ロール状に巻いたカーペットは、屋内の乾燥した平坦な場所に、2段の俵積みで保管した。
3. 高力ボルトは、工事現場受入れ時に包装を開封し、乾燥した場所に、使用する順序に従って整理して保管した。
4. 防水用の袋入りアスファルトは、積重ねを10段以下にし、荷崩れに注意して保管した。
5. プレキャストコンクリートの床部材は平置きとし、上下の台木が鉛直線上に同位置になるように積み重ねて保管した。

[No. 56] 型枠工事に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 支保工以外の材料の許容応力度は、長期許容応力度と短期許容応力度の平均値とした。
2. コンクリート打込み時に型枠に作用する鉛直荷重は、コンクリートと型枠による固定荷重とした。
3. 支柱を立てる場所が沈下するおそれがあったため、脚部の固定と根がらみの取付けは行わなかった。
4. 型枠の組立ては、下部のコンクリートが有害な影響を受けない材齢に達してから開始した。
5. 柱型枠の組立て時に足元を栈木で固定し、型枠の精度を保持した。

[No. 57] コンクリートの養生に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

ただし、計画供用期間の級は標準とする。

1. 打込み後のコンクリートが透水性の小さいせき板で保護されている場合は、湿潤養生と考えるもよい。
2. コンクリートの圧縮強度による場合、柱のせき板の最小存置期間は、圧縮強度が3 N/mm<sup>2</sup>に達するまでとする。
3. 普通ポルトランドセメントを用いた厚さ18 cm以上のコンクリート部材においては、コンクリートの圧縮強度が10 N/mm<sup>2</sup>以上になれば、以降の湿潤養生を打ち切ることができる。
4. コンクリート温度が2℃を下回らないように養生しなければならない期間は、コンクリート打込み後2日間である。
5. 打込み後のコンクリート面が露出している部分に散水や水密シートによる被覆を行うことは、初期養生として有効である。

[No. 58] 軽量鉄骨壁下地に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. スタッドは、上部ランナーの上端とスタッド天端との隙間が15 mmとなるように切断した。
2. ランナーは、両端部を端部から50 mm内側で固定し、中間部を900 mm間隔で固定した。
3. 振れ止めは、床ランナーから1,200 mm間隔で、スタッドに引き通し、固定した。
4. スペーサーは、スタッドの端部を押さえ、間隔600 mm程度に留め付けた。
5. 区分記号65形のスタッド材を使用した袖壁端部の補強材は、垂直方向の長さが4.0 mを超えたため、スタッド材を2本抱き合わせて溶接したものをを用いた。

[No. 59] コンクリート素地面の塗装工事に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りにおいて、気温が20℃であったため、中塗りの工程間隔時間を2時間とした。
2. 常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りにおいて、塗料を素地に浸透させるため、下塗りはローラーブラシ塗りとした。
3. 2液形ポリウレタンエナメル塗りにおいて、塗料は所定の可使時間内に使い終える量を調合して使用した。
4. 合成樹脂エマルジョンペイント塗りにおいて、流動性を上げるため、有機溶剤で希釈して使用した。
5. つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗りにおいて、塗装場所の気温が5℃以下となるおそれがあったため、施工を中止した。

[No. 60] 鉄筋コンクリート造建築物の小口タイル張り外壁面の調査方法と改修工法に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 打診法は、打診用ハンマー等を用いてタイル張り壁面を打撃して、反発音の違いから浮きの有無を調査する方法である。
2. 赤外線装置法は、タイル張り壁面の内部温度を赤外線装置で測定し、浮き部と接着部における熱伝導の違いにより浮きの有無を調査する方法で、天候や時刻の影響を受けない。
3. タイル陶片のひび割れ幅が0.2mm以上であったが、外壁に漏水や浮きが見られなかったため、当該タイルを研って除去し、外装タイル張り用有機系接着剤によるタイル部分張替え工法で改修した。
4. 外壁に漏水や浮きが見られなかったが、目地部に生じたひび割れ幅が0.2mm以上で一部目地の欠損が見られたため、不良目地部を研って除去し、既製調合目地材による目地ひび割れ改修工法で改修した。
5. 構造体コンクリートとモルタル間の浮き面積が1箇所当たり0.2m<sup>2</sup>程度、浮き代が1.0mm未満であったため、アンカーピンニング全面セメントスラリー注入工法で改修した。

※ 問題番号 [No. 61] ~ [No. 72] までの 12 問題のうちから、8 問題を選択し、解答してください。

[No. 61] 次の記述のうち、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 鉄筋コンクリート造3階建ての共同住宅においては、2階の床及びこれを支持する梁に鉄筋を配置する特定工程に係る工事を終えたときは、中間検査の申請をしなければならない。
2. 木造3階建ての戸建て住宅を、大規模の修繕をしようとする場合においては、確認済証の交付を受けなければならない。
3. 確認済証の交付を受けた建築物の完了検査を受けようとする建築主は、工事が完了した日から5日以内に、建築主事に到達するように検査の申請をしなければならない。
4. 床面積の合計が10m<sup>2</sup>を超える建築物を除却しようとする場合においては、原則として、当該除却工事の施工者は、建築主事を經由して、その旨を都道府県知事に届け出なければならない。

[No. 62] 次の記述のうち、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 建築監視員は、建築物の工事施工者に対して、当該工事の施工の状況に関する報告を求めることができる。
2. 建築主事は、建築基準法令の規定に違反した建築物に関する工事の請負人に対して、当該工事の施工の停止を命じることができる。
3. 建築物の所有者、管理者又は占有者は、その建築物の敷地、構造及び建築設備を常時適法な状態に維持するよう努めなければならない。
4. 特定行政庁が指定する建築物の所有者又は管理者は、建築物の敷地、構造及び建築設備について、定期的に、建築物調査員にその状況の調査をさせて、その結果を特定行政庁に報告しなければならない。

[No. 63] 避難施設等に関する記述として、「建築基準法施行令」上、誤っているものはどれか。

1. 小学校には、非常用の照明装置を設けなければならない。
2. 映画館の客用に供する屋外への出口の戸は、内開きとしてはならない。
3. 回り階段の部分における踏面の寸法は、踏面の狭い方の端から30cmの位置において測らなければならない。
4. 両側に居室がある場合の、小学校の児童用の廊下の幅は、2.3m以上としなければならない。

[No. 64] 建設業の許可に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 特定建設業の許可を受けようとする建設業のうち、指定建設業は、土木工事業、建築工事業、電気工事業、管工事業及び造園工事業の5業種である。
2. 一般建設業の許可を受けようとする者は、許可を受けようとする建設業に係る建設工事に関して10年以上の実務の経験を有する者を、その営業所ごとに置く専任の技術者としてすることができる。
3. 工事一件の請負代金の額が500万円に満たない建設工事のみを請け負うことを営業とするものは、建設業の許可を受けなくてもよい。
4. 特定建設業の許可を受けた者でなければ、発注者から直接請け負った建設工事を施工するために、建築工事業にあっては下請代金の額の総額が6,000万円以上となる下請契約を締結してはならない。

[No. 65] 請負契約に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 注文者は、工事一件の予定価格が5,000万円以上である工事の請負契約の方法が随意契約による場合であっても、契約の締結までに建設業者が当該建設工事の見積りをするための期間は、原則として、15日以上を設けなければならない。
2. 元請負人は、下請負人からその請け負った建設工事が完成した旨の通知を受けたときは、当該通知を受けた日から30日以内で、かつ、できる限り短い期間内に、その完成を確認するための検査を完了しなければならない。
3. 特定建設業者は、当該特定建設業者が注文者となった下請契約に係る下請代金の支払につき、当該下請代金の支払期日までに一般の金融機関による割引を受けることが困難であると認められる手形を交付してはならない。
4. 元請負人は、その請け負った建設工事を施工するために必要な工程の細目、作業方法その他元請負人において定めるべき事項を定めようとするときは、あらかじめ、下請負人の意見をきかなければならない。

[No. 66] 監理技術者等に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 専任の監理技術者を置かなければならない建設工事について、その監理技術者の行うべき職務を補佐する者として政令で定める者を工事現場に専任で置く場合には、監理技術者は2つの現場を兼任することができる。
2. 専任の者でなければならぬ監理技術者は、当該選任の期間中のいずれの日においても国土交通大臣の登録を受けた講習を受講した日の属する年の翌年から起算して7年を経過しない者でなければならぬ。
3. 建設業者は、請け負った建設工事を施工するときは、現場代理人の設置にかかわらず、主任技術者又は監理技術者を置かなければならぬ。
4. 主任技術者及び監理技術者は、建設工事を適正に実施するため、当該建設工事の施工計画の作成、工程管理、品質管理その他の技術上の管理及び施工に従事する者の技術上の指導監督を行わなければならない。

[No. 67] 労働契約に関する記述として、「労働基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 使用者は、労働者の退職の場合において、請求があった日から、原則として、7日以内に賃金を支払い、労働者の権利に属する金品を返還しなければならない。
2. 労働契約は、契約期間の定めのないものを除き、一定の事業の完了に必要な契約期間を定めるもののほかは、原則として、3年を超える契約期間について締結してはならない。
3. 使用者は、労働者が業務上負傷し、療養のために休業する期間とその後30日間は、やむを得ない事由のために事業の継続が不可能となった場合においても解雇してはならない。
4. 就業のために住居を変更した労働者が、省令により明示された労働条件が事実と相違する場合で労働契約を解除し、当該契約解除の日から14日以内に帰郷する場合においては、使用者は、必要な旅費を負担しなければならない。

[No. 68] 建設業の事業場における安全衛生管理体制に関する記述として、「労働安全衛生法」上、誤っているものはどれか。

1. 元方安全衛生管理者は、その事業場に専属の者でなければならない。
2. 安全衛生責任者は、安全管理者又は衛生管理者の資格を有する者でなければならない。
3. 特定元方事業者は、統括安全衛生責任者に元方安全衛生管理者の指揮をさせなければならない。
4. 統括安全衛生責任者は、その事業の実施を統括管理する者でなければならない。



[No. 69] 労働者の就業に当たっての措置に関する記述として、「労働安全衛生法」上、誤っているものはどれか。

1. 事業者は、労働者を雇い入れたときは、原則として、当該労働者に対し、その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を行わなければならない。
2. 事業者は、事業場における安全衛生の水準の向上を図るため、危険又は有害な業務に現に就いている者に対し、その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を行うように努めなければならない。
3. 事業者は、特別教育を必要とする業務に従事させる労働者が、当該教育の科目の全部又は一部に関し十分な知識及び技能を有すると認められるときは、当該科目についての特別教育を省略することができる。
4. 事業者は、建設業の事業場において新たに職務に就くこととなった作業主任者に対し、作業方法の決定及び労働者の配置に関する事項について、安全又は衛生のための教育を行わなければならない。

[No. 70] 次の記述のうち、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」上、誤っているものはどれか。

1. 建設資材廃棄物の再資源化等には、焼却、脱水、圧縮その他の方法により建設資材廃棄物の大きさを減ずる行為が含まれる。
2. 建設業を営む者は、建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材を使用するよう努めなければならない。
3. 対象建設工事の元請業者は、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、その旨を都道府県知事に報告しなければならない。
4. 分別解体等には、建築物等の新築工事に伴い副次的に生ずる建設資材廃棄物をその種類ごとに分別しつつ当該工事を施工する行為が含まれる。

[No. 71] 「騒音規制法」上、指定地域内における特定建設作業の実施の届出に関する記述として、誤っているものはどれか。

ただし、作業は、その作業を開始した日に終わらないものとする。

1. 特定建設作業を伴う建設工事を施工しようとする者は、作業の実施の期間や騒音の防止の方法等の事項を、市町村長に届出をしなければならない。
2. くい打機をアースオーガーと併用する作業は、特定建設作業の実施の届出をしなければならない。
3. さく岩機の動力として使用する作業を除き、電動機以外の原動機の定格出力が15 kW以上の空気圧縮機を使用する作業は、特定建設作業の実施の届出をしなければならない。
4. 環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が70 kW以上のトラクターショベルを使用する作業は、特定建設作業の実施の届出をしなければならない。

[No. 72] 貨物自動車を使用して分割できない資材を運搬する際に、「道路交通法」上、当該車両の出発地を管轄する警察署長の許可を必要とするものはどれか。

ただし、貨物自動車は、軽自動車を除くものとする。

1. 長さ11 mの自動車に、車体の前後に0.5 mずつはみ出す長さ12 mの資材を積載して運搬する場合
2. 荷台の高さが1 mの自動車に、高さ3 mの資材を積載して運転する場合
3. 積載する自動車の最大積載重量で資材を運搬する場合
4. 資材を看守するため必要な最小限度の人員を、自動車の荷台に乗せて運搬する場合



令和4年度 1級建築施工管理技術検定第一次検定 正答肢

(午前の部)

問題No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正答肢	4	2	3	4	1	4	1	1	1	2
問題No.	11	12	13	14	15	15問題のうち12問題を選択し解答				
正答肢	4	2	3	4	1					

問題No.	16	17	18	19	20	5問題を全問解答				
正答肢	2	3	4	2	1					

問題No.	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正答肢	3	4	4	4	1	2	4	1	4	1
10問題のうち7問題を選択し解答										

問題No.	31	32	33	34	35	36	37	38	39
正答肢	2	1	3	1	3	4	3	2	1
9問題のうち7問題を選択し解答									

問題No.	40	41	42	43	44	5問題を全問解答				
正答肢	1	1	3	4	2					

(午後の部)

問題No.	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
正答肢	4	3	3	3	2	4	3	2	1	1
10問題を全問解答										

問題No.	55	56	57	58	59	60	【応用能力問題】 6問題を全問解答			
正答肢	1, 3	2, 3	2, 4	1, 5	1, 4	2, 5				

問題No.	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
正答肢	3	2	1	1	2	2	3	2	4	3
問題No.	71	72	12問題のうち8問題を選択し解答							
正答肢	2	2								

配点：72問出題し、そのうち60問解答を要する試験であり、各問題1点、60点満点です。  
 応用能力問題は、選んだ肢の番号が2つとも正しい場合のみ正答となります。